

授業科目	仏教学Ⅰ【講義】		開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>釈尊の生涯を、テキストに添って学ぶ。まず、ビデオや資料を用いて感心もてるようにしたい。そのうえで、釈尊が説いた仏教の思想内容を学ぶ。最終的には、自分たちにとって、仏教で教えることが如何なる意味を持つかを主体的に考えることができるようになる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 釈尊の生涯について、誕生から涅槃までを学ぶ。</li> <li>2. 釈尊がさとした内容が、どのようなものであったかを説明することができる。</li> <li>3. 仏教の教えが、自分にとってどのようなものであるかを述べるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) ①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (3) ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>この科目は仏教福祉活動の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	「私語をすること」について課題カード提出		
第2回	宗教とは何か	「宗教」について課題カード提出		
第3回	現代社会における仏教に対する誤解	「社会」について課題カード提出		
第4回	仏教の基本的性格	「仏教」について課題カード提出		
第5回	釈尊以前の仏教	「インド」について課題カード提出		
第6回	釈尊の生涯（誕生）	課題 レポート①「世界宗教について考える」		
第7回	釈尊の生涯（青年時代とその宗教状況）	課題 レポート①「世界宗教について考える」		
第8回	釈尊の生涯（四門出遊と出家）	課題 レポート①「世界宗教について考える」		
第9回	釈尊の生涯（修行）	釈尊の「修行」について課題カード提出		
第10回	釈尊の生涯（成道とその内容）	釈尊の「成道」について課題カード提出		
第11回	釈尊の生涯（初転法輪）	釈尊の「初転法輪」について課題カード提出		
第12回	釈尊の生涯（弟子たちの特色）	「釈尊の弟子」について課題カード提出		
第13回	釈尊の生涯（晩年の釈尊）	課題 レポート②「釈尊の生涯について学ぶ」		
第14回	釈尊の生涯（最後の説法）	レポート②「釈尊の生涯について学ぶ」		
第15回	まとめ ー私たちの生活と仏教ー	課題 レポート②「釈尊の生涯について学ぶ」		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50%			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝などに参加してください。			
教科書	釈尊の道ーその生涯と教えー			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス		

授業科目	仏教学 I 【講義】		開講時期	前期
担当教員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>本学の建学の精神である仏教はいかなる要請によって生まれたのか、仏教の目指すところはどこにあるのか、インドの思想的・社会的背景を学習しながら、釈尊の教えとその現代的意義について考えてみましょう。また、仏教の倫理観・人間観を学ぶことにより、今一度、「わたし」を見つめ直す機会にしてください。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教が何を目的としているかについて、説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の生涯に起こった出来事について、主要な事項を説明することができる。</li> <li>3. 釈尊の教えを通じて、自分の生き方について振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) ①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」  (3) ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>この科目は仏教福祉活動・高校教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		仏教を学ぶことの意味について		
第2回 筑紫女学園、その建学の精神・校訓		『聖典』に掲載されている建学の精神・校訓を読んでください		
第3回 建学の精神にもとづく様々な活動（東日本大震災、インド、京都・奈良研修など）		仏教とボランティアや、インド、京都・奈良の関係について調べてください		
第4回 仏教行事の実際（全学礼拝）		仏教行事に参加してみたいの感想を提出してください		
第5回 人間について		現代の私たちが抱える様々な課題について考えてみましょう		
第6回 宗教とは		身近にある宗教について、あなたはどのように考えますか		
第7回 太宰府天満宮フィールドワーク		太宰府天満宮とその宗教性について調べてください		
第8回 フィールドワーク、プレゼンテーション		プレゼンテーションの準備をしてください		
第9回 仏教誕生以前のインド社会		インダス文明・バラモン教・カースト制度について調べてください		
第10回 釈尊の誕生		一人ひとりの尊さについて		
第11回 若き釈尊の苦悩		存在そのものが不可避免的に抱える不条理について		
第12回 「四門出遊」		生老病死について		
第13回 出家と苦行		覚りへの道、真実との出会いについて		
第14回 釈尊の覚り		無我ということ		
第15回 まとめ		前期の講義を振り返ってください		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 毎回の「講義の感想・意見」および全学礼拝・礼拝アワーレポート・学期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 講義に向き合う姿勢により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とする。毎回授業終了時（10分間）に、「講義の感想・意見」を書いて提出すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	火3、金3	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、仏教の人間観・世界観を通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。			
到達目標	1. 民族宗教と普遍宗教の違いをしる。 2. 仏教で教える価値観を一つは用語とともに説明できるようになる。 3. 仏教の思想を学ぶことで、現代社会が抱える問題を見つめなおすことができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」 (3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」 この科目は仏教福祉活動の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	釈尊の生涯を振り返る	「夏休みに学んだこと」についての課題カード提出		
第2回	さとり構造	「さとり」についての課題カード提出		
第3回	釈尊の悟り（縁起・因果の法則）	「縁起」についての課題カード提出		
第4回	悟りからみた世界（無常・無我・涅槃）	「無常・無我」についての課題カード提出		
第5回	心のふしぎ（仏教の認識論）	「仏教の認識論」についての課題カード提出		
第6回	業と輪廻思想	「業」についての課題カード提出		
第7回	さとりへの道（八正道・中道）	課題 レポート①「釈尊の悟りの内容について」		
第8回	さとの実践（慈悲と智慧について）	課題 レポート①「釈尊の悟りの内容について」		
第9回	さとの実践（慈悲と愛について）	課題 レポート①「釈尊の悟りの内容について」		
第10回	初期仏教教団の形成	「初期仏教教団」についての課題カード提出		
第11回	大乘仏教の起こりについて	「大乘仏教」についての課題カード提出		
第12回	愛しさと切なさとの慈悲と	「慈悲」についての課題カード提出		
第13回	人間関係で苦しむあなたへ	「苦」についての課題カード提出		
第14回	苦の解決方法について	課題 レポート②「現在の仏教教団の課題」		
第15回	自分を見つめる視点の獲得「智慧」	課題 レポート②「現在の仏教教団の課題」		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝などに参加してください。			
教科書	釈尊の道—その生涯と教え—			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	栗山 俊之		単位	2
授業の目的と概要	<p>仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、仏教の人間観・世界観を通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>「縁起」「無我」などの釈尊の教えについて講義します。また、「人間としていかに生きるか」「死についてどう考えるか」など、現代人が抱える思想的問題に対して仏教が示す指針を考察して、「自分」を見つめ直しましょう。</p> <p>本学建学の精神である仏教はいかなる要請によって生まれたのか、仏教の目指すところはどこにあるのか、インドの思想的・社会的背景を学習しながら、釈尊の教えとその現代的意義について考えてみましょう。また、仏教の倫理観・人間観を学ぶことにより、今一度、「わたし」を見つめ直す機会にしてください。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仏教の中心教義である「縁起」について説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の死についての見解について、自己の意見を表明することができる。</li> <li>3. 仏教が提供する人間観・倫理観を通じて、自己と向き合い、自己を取り巻く世界を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) ①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</p> <p>(3) ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>この科目は仏教福祉活動・高校教員の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	はじめに：仏教学Ⅰの復習	仏教学Ⅰを振り返ってください		
第2回	不可思議なる世界	「不思議」ということ		
第3回	坐を立て、あらゆるものの救いへ	自利利他ということ		
第4回	初転法輪「縁起」	関係の中の存在		
第5回	釈尊の教団	サンガ		
第6回	釈尊の説法①	対機説法		
第7回	釈尊の説法②	賢愚		
第8回	釈尊の説法③	善悪		
第9回	釈尊の死	ブッタ最後の旅		
第10回	釈尊滅後の仏教の展開	上座部仏教と大乘仏教		
第11回	あらゆるものの救いという願い	阿弥陀如来		
第12回	仏教、日本へ	日本の仏教受容と親鸞までの日本仏教の展開		
第13回	仏教に出会った人びと①	親鸞		
第14回	仏教に出会った人びと②	宮沢賢治		
第15回	まとめ	後期を振り返ってください		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 毎回の「講義の感想／意見」および全学礼拝・礼拝アワーレポート・学期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 講義に向き合う姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とする。毎回授業終了時（10分間）に、「講義の感想／意見」を書いて提出すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	月曜 4 講目	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想 I 【講義】	開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴	単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>親鸞は日本の思想史上でも優れて、社会を相対化し、自らがどのように生きることが人間として最も大切かを仏教にもとづいて考えた人物です。その親鸞の宗教が、日本の宗教状況においてどのような意味を持つかを確認します。さらに、その生き方が現代社会に生きる私たちにとってどのような意味を持つかを考えます。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民族宗教と普遍宗教の基本的性格の違いが説明できる。</li> <li>2. 日本に仏教が伝来してから、親鸞に至るまでの流れが説明できる。</li> <li>3. 現代社会の問題について、浄土真宗の視点とはどのようなものかを発言することができるようになる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</li> <li>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <p>この科目は仏教福祉活動の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	「私語について」課題カード提出	
第2回	日本における宗教状況認識について	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部の課題カード提出	
第3回	仏教の伝来	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-1の課題カード提出	
第4回	古代日本における宗教	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-2の課題カード提出	
第5回	聖徳太子の仏教理解と実践	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-3の課題カード提出	
第6回	行基の仏教理解と実践	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-5の課題カード提出	
第7回	最澄の仏教理解と実践	「最長の仏教理解」の課題カード提出	
第8回	末法思想と浄土教の関係について	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-6の課題カード提出	
第9回	法然の仏教理解と実践	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-8の課題カード提出	
第10回	親鸞の生涯（出生から出家まで）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-1の課題カード提出	
第11回	親鸞の生涯（比叡山での修行）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-2の課題カード提出	
第12回	親鸞の生涯（古水時代と夢告）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-2の課題カード提出	
第13回	親鸞の生涯（念仏弾圧と流罪）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-3の課題カード提出	
第14回	親鸞をとりまく宗教状況について	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-3の課題カード提出	
第15回	現代社会と浄土真宗	「自分自身の生き方と親鸞の信仰」について課題レポート提出	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	-		
レポート	50%		
小テスト等	-		
成果発表	-		
受講態度他	50%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝などに参加すること。		
教科書	二葉憲香・福嶋寛隆『新編 歴史のなかの親鸞』		
指定図書	特に指定しない		
参考図書	特になし		
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ【講義】		開講時期	後期
担当教員	宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	<p>浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。</p> <p>親鸞の生涯の後半を学ぶ。併せて、親鸞の思想の特色である他力本願理解などを多角的に学び、自己と人間、社会に対する認識を深めていきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親鸞の説いた生き方がどのようなものであったかを説明することができる。</li> <li>2. 親鸞が求めた社会の在り方を説明できる。</li> <li>3. 親鸞思想と私たちの生活の関係性を説明できる。</li> <li>4. 親鸞精神と本学の建学の精神との関係性を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -①自己の良心と社会の規範・ルールに従って行動できる。「倫理観・人間観」</li> <li>(2) -⑤人類の文化・社会と自然への理解を背景として、物事を考察することができる。「幅広い視野」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <p>この科目は仏教福祉活動の実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	テキスト『歴史のなかの親鸞』に関する課題カード提出		
第2回	親鸞の生涯（復習）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部に関する課題カード提出		
第3回	親鸞の生涯（恵信尼との結婚）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-4に関する課題カード提出		
第4回	親鸞の生涯（関東時代の伝道）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-5に関する課題カード提出		
第5回	親鸞の生涯（帰洛と執筆活動）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-6に関する課題カード提出		
第6回	親鸞の生涯（親鸞の求めた社会の在り方について）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-8に関する課題カード提出		
第7回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～信心とは～	テキスト『歴史のなかの親鸞』付録：消息の部に関する課題カード提出		
第8回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～世をいとふしるしとは①～	テキスト『歴史のなかの親鸞』付録：消息の部に関する課題カード提出		
第9回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～世をいとふしるしとは②～	テキスト『歴史のなかの親鸞』付録：消息の部に関する課題カード提出		
第10回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～善人と悪人①～	テキスト『歴史のなかの親鸞』付録：消息の部に関する課題カード提出		
第11回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～善人と悪人②～	テキスト『歴史のなかの親鸞』付録：消息の部に関する課題カード提出		
第12回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～他力本願とは①～	「他力本願」に関して課題カード提出		
第13回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～他力本願とは②～	「他力本願」に関して課題カード提出		
第14回	浄土真宗と社会的課題	「浄土真宗と社会」に関する課題カード提出		
第15回	浄土真宗の目指す生き方と社会	「浄土真宗の目指す生き方」に関して課題カード提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50%			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝などに参加すること			
教科書	二葉憲香・福嶋寛隆『新編 歴史のなかの親鸞』			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス		

授業科目	キャリアデザイン基礎【講義】		開講時期	前期
担当教員	藤原(隆)・大橋(健)・天野(緑)		単位	2
授業の目的と概要	<p>キャリア (Career) の語源は“轍(わだち)”である。われわれが歩んできた人生には“経歴”という轍が残る。この世に生を受けた以上、われわれはより有意義な轍を残したい。本授業では、自らのキャリアをより有意義なものにするために、大切にしなければならぬ考え方や行動原則を学ぶことを目的とする。</p> <p>授業の目的を達成するためにアクティブ・ラーニングを導入する。この授業では、TBL (Team-Based Learning) といわれるアクティブ・ラーニングの手法によって、主体的・能動的学習をすることをめざす。</p>			
到達目標	<p>1. 自らのキャリアを、教科書にそって第三者と議論をしながら考えることができる。</p> <p>2. 自らのキャリアビジョンを、第三者に語るができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>担当教員の中には一般企業での実務経験を有する者があり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の概要説明 (授業の全体像を理解するための模擬授業)	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定		
第2回	現代社会とキャリアデザイン (教科書第1章)	受講ノートの指示に沿った教科書第1章の事前学修・事後学修		
第3回	現代人のライフサイクルと職業 (教科書第2章)	受講ノートの指示に沿った教科書第2章の事前学修・事後学修		
第4回	チームビルディング (チームづくり) 演習	継続受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること		
第5回	現代人の生涯収支と職業 (教科書第3章)	受講ノートの指示に沿った教科書第3章の事前学修・事後学修		
第6回	キャリアの広がりや生涯発達 (教科書第4章)	受講ノートの指示に沿った教科書第4章の事前学修・事後学修		
第7回	働く意味と自分の職業観 (第教科書5章)	受講ノートの指示に沿った教科書第5章の事前学修・事後学修		
第8回	相互インタビューによる自己分析 (教科書第6章)	第8回はなし		
第9回	学生生活で得るキャリア意識の明確化 (教科書第7章)	受講ノートの指示に沿った教科書第7章の事前学修・事後学修		
第10回	経済・雇用環境に応じた働き方の理解 (教科書第8章)	受講ノートの指示に沿った教科書第8章の事前学修・事後学修		
第11回	インターンシップを活用したキャリア考察 (教科書第9章)	受講ノートの指示に沿った教科書第9章の事前学修・事後学修		
第12回	キャリア形成と求められる基礎能力 (教科書第10章)	受講ノートの指示に沿った教科書第10章の事前学修・事後学修		
第13回	多彩な職種や業種と自分の適職 (教科書第11章)	受講ノートの指示に沿った教科書第11章の事前学修・事後学修		
第14回	自らのキャリアビジョンを語るⅠ 受講ノートの提出	授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する		
第15回	自らのキャリアビジョンを語るⅡ、授業の総括 受講ノートの返却	授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 受講ノートの提出 (最終ページに授業全体の振り返り〔感想文形式〕を必ず記述のこと) (受講ノートは最終回に返却します)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	50% TBLの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように本授業はTBLで運営する。TBLが成立する前提条件は学生による事前学修への誠実な取り組みである。また、授業への無遅刻・無欠席での参加も重要な要素である。やむを得ない遅刻・欠席は可能な限り事前に連絡を入れること。私語や居眠りは当然のこと、主体的・能動的に学修しようとする学生は授業の場にいたとしても出席として認めない。</p> <p>なお、初回の授業で本授業専用の受講ノートの配付し受講に関するルールについて説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加すること。</p>			
教科書	『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第2版』(大宮登監修、2014年、日経BP社、1,800円+税) ※初回の授業時に本授業専用の受講ノートを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日の昼休み(大橋)、火曜日の昼休み(藤原)、授業の前後(天野)	メールアドレス		

授業科目	ライフマネジメント I【演習】	開講時期	後期
担当教員	藤原(隆)・大橋(健)・徳永(彩)	単位	2
授業の目的と概要	もっと人前で自由闊達に話せばいいのに悩んでしまう。彼氏から求婚されたがまだ結婚するには早いかと悩んでしまう。あるいは、就職したが、仕事がうまく前に進まない、職場の人間関係がぎくしゃくしてしまう。このように、人生は問題の連続である。問題とは“あるべき状態と現状のギャップ”である。人生をより豊かなものにしていくためには、そのような問題から逃げず、真正面に向き合い解決していかねばならない。解決の方法は色々あるが、本授業ではより合理的な方法として、ロジックツリーを中心とした問題解決の手法を学んでいく。授業の目的を達成するためにTBL (Team-Based Learning) といわれるアクティブ・ラーニングの手法を導入する。そのことによって、「わかる」から「できる」を実現する授業をめざす。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 問題を他人任せにせず自律的にとらえることができる。</li> <li>2. 問題を問題解決の手順にそって解決していこうとする姿勢が保てる。</li> <li>3. チームとして協力し合いながら問題解決に臨める。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」</li> <li>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</li> <li>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</li> </ol> <p>担当教員の中には一般企業での実務経験を有する教員がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	教科書1限目：問題解決能力を身につけよう（小テスト①）	受講ノートの指示に沿った教科書1限目の事前学修・事後学修	
第3回	教科書1限目に関するケーススタディ①	ケース①の実施と振り返り	
第4回	チームビルディング演習	履修する学生は全員参加のこと	
第5回	教科書2限目：問題の原因を極め、打ち手を考える（小テスト②）	受講ノートの指示に沿った教科書2限目の事前学修・事後学修	
第6回	教科書2限目に関するケーススタディ②	ケース②の実施と振り返り	
第7回	教科書3限目：問題の原因を極め、打ち手を考える（小テスト③）	受講ノートの指示に沿った教科書3限目の事前学修・事後学修	
第8回	教科書3限目に関するケーススタディ③	ケース③の実施と振り返り	
第9回	インタラクティブ・レクチャー（教科書とケーススタディのまとめ）	小テスト①②③の振り返り	
第10回	問題の発見と解決演習（チーム討議→チーム代表選出）	与えられたケースから問題を発見し解決策を探る	
第11回	問題の発見と解決演習（チーム代表によるクラス発表）	チーム代表の問題解決案のブラッシュアップ（力を結集）	
第12回	問題の発見と解決演習（チーム代表によるクラス発表）	授業内の全体学修：チーム代表の発表内容の評価	
第13回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）	成果発表の準備と振り返り	
第14回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション） 受講ノートの提出	成果発表の準備と振り返り	
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却	過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	20% 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと）（受講ノートは最終回に返却します）		
小テスト等	15% 教科書1限目（5%）、2限目（5%）、3限目（5%）		
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション		
受講態度他	45% TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように本授業はTBLで運営する。TBLの前提は学生による事前学習への誠実な取り組みである。また、授業への無遅刻・無欠席での参加も重要な要素である。やむを得ない遅刻・欠席は可能な限り事前に連絡を入れること。私語や居眠りは当然のこと、主体的・能動的に学習しようとしいない学生は授業の場にいるとしても出席として認めない。なお、初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し受講に関するルールについて説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加すること。		
教科書	『世界一やさしい問題解決の授業』（渡辺健介、2007、ダイヤモンド社、1,200円＋税）		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	ライフマネジメントⅡ【演習】	開講時期	前期
担当教員	大橋(健)・徳永(彩)	単位	2
授業の目的と概要	<p>ライフマネジメントⅠでは、問題解決の考え方や手法を学んだ。しかし、人は人生のさまざまな問題に直面して、必ずしも合理的な問題解決を行えるわけではない。ヒューリスティック（思考の短絡化）やバイアス（偏見）によって簡単に歪められてしまう。そこで、ライフマネジメントⅡでは、女性としての交渉力に焦点を当て、次のようなことを考えていくことを目的とする。</p> <p>1. 男女共同参画が必要な現代社会において、我々がいかにジェンダーバイアス（男女の役割に関する固定観念）に囚われているかを知る。</p> <p>2. 男女の役割に関する固定観念の呪縛から逃れ、女性らしい交渉力を身につけるためにはどうすれば良いか。</p> <p>授業の目的を達成するために、TBL（Team-Based Learning）とロールプレイング法というアクティブ・ラーニングの手法を導入する。そのことによって、「わかる」から「できる」を実現する授業をめざす。</p>		
到達目標	<p>1. 女性のジェンダーバイアスを、教科書にそって第三者と議論をしながら考えることができる。</p> <p>2. 自らが理想とする交渉スタイルを、第三者に語るすることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」</p> <p>(2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>(2) -④社会の多様な問題を発見し、解決することができる。「問題解決力」</p> <p>(3) -①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	求めようとしなない女性たち（プリント1）	受講ノートの指示に沿ったプリント1の事前学修・事後学修	
第3回	他人に認められるのを待っていませんか？（プリント2）	受講ノートの指示に沿ったプリント2の事前学修・事後学修	
第4回	チームビルディング演習	継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること	
第5回	そもそも「アサーティブ」って何？ 「言う」技術	受講ノートの指示に沿った教科書1章&第2章の事前学修・事後学修	
第6回	「言う」技術 ロールプレイング	設題に沿ったのロールプレイングを考えてくること	
第7回	「伝える」技術	受講ノートの指示に沿った教科書3章の事前学修・事後学修	
第8回	「伝える」技術 ロールプレイング	設題に沿ったのロールプレイングを考えてくること	
第9回	相手を「知る」技術	受講ノートの指示に沿った教科書4章の事前学修・事後学修	
第10回	相手を「知る」技術 ロールプレイング	設題に沿ったのロールプレイングを考えてくること	
第11回	「Give & Take」から「Give & Given」へ	受講ノートの指示に沿った教科5章の事前学修・事後学修	
第12回	「Give & Take」から「Give & Given」へ ロールプレイング	設題に沿ったのロールプレイングを考えてくること	
第13回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）	成果発表の準備と振り返り	
第14回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション） 受講ノートの提出	成果発表の準備と振り返り	
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却	過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと）（受講ノートは最終回に返却します）		
小テスト等	なし		
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション		
受講態度他	50% アクティブ・ラーニングへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように本授業はTBL（Team-Based Learning）とロールプレイング法で運営する。これらのアクティブ・ラーニングの前提は学生による事前学修への誠実な取り組みである。また、授業への無遅刻・無欠席での参加も重要な要素である。やむを得ない遅刻・欠席は可能な限り事前に連絡を入れること。私語や居眠りは当然のこと、主体的・能動的に学修しようとする学生は授業の場に行ったとしても出席として認めない。なお、初回の授業で本授業専用の受講ノートの配付し受講に関するルールについて説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加すること。</p>		
教科書	プリントを配布する。		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	水曜日の昼休み（大橋）、授業の前後（徳永）	メールボックス	各教員の他科目のシラバスを参照

授業科目	キャリアインターンシップ【実習】		開講時期	前期
担当教員	大橋 健治		単位	1
授業の目的と概要	本授業の目的は、就業体験をもとに経験学習（経験し、内省し、概念化し、応用する）をして、社会人となることを前提とした大学生生活をデザインできるようになることである。本授業の構成は、前期の授業＋インターンシップ経験（事前研修、事後研修を含む）＋後期に入ってからレポートである。授業の目的を効果的に達成するために、企業活動をバリューチェーン（価値連鎖）というモデルを使って観察する方法を伝授する。およそどのような企業も、各部門の努力によって顧客にとっての価値（バリュー）を連鎖的（チェーン）に創り込んでいるのである。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. バリューチェーン（価値連鎖）というモデルの概念を第三者に説明できること。</li> <li>2. バリューチェーン（価値連鎖）というモデルの概念を使って、インターンシップ先の組織が顧客にとっての価値をどのように創り込んでいるかを説明できること。</li> <li>3. 社会人として育っていくにあたっての自らの抱負をプレゼンテーションできること。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(3) ①自己にふさわしいキャリアを構想できる。「キャリアを構想する力」</p> <p>この科目は一般企業での実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 企業活動とバリューチェーンⅠ	レクチャー	配付したプリントの事前学習と実在の組織の事例探索を持ち込むこと		
第2回 企業活動とバリューチェーンⅡ	事例の交換	配付したプリントの事前学習と実在の組織の事例探索を持ち込むこと		
第3回 企業活動とバリューチェーンⅢ	代表発表	配付したプリントの事前学習と実在の組織の事例探索を持ち込むこと		
第4回	インターンシップを通じて学んでほしいこと	配付したプリントの事前学習と自らの抱負の発表準備		
第5回	進路支援センターの説明	特になし		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% インターンシップ終了後に「インターンシップ体験報告書」の提出を求める。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 無遅刻、無欠席で、自発的な学習態度を求める。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	単位の授与は、①本授業の受講＋②九州インターンシップ推進協議会が開催する「事前研修」の受講＋③九州インターンシップ推進協議会の会員企業のインターンシップへの参加＋④九州インターンシップ推進協議会が開催する「事後研修」の受講＋⑤インターンシップ体験報告書の提出の5つの事項を満たした者に認められる			
教科書	プリントを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	ウエルネス・スポーツ I 【実技】		開講時期	前期
担当教員	宮平(喬)・栗木(明)・城戸(親)・泉原(嘉)・山下(龍)・大橋(充)		単位	1
授業の目的と概要	<p>本授業は各人が選択したスポーツの実習を通して、それぞれのスポーツの技術・ルール・マナーなどを学習しながら発育終期を迎えた学生の健康・体力向上を図る。また、体力のみならずスポーツを通して、社会の中で生きていく上でのソーシャルスキルを養う。</p> <p>実習するスポーツは、バレーボール、バドミントン、卓球、テニスであり、その他にレクリレーション等も適宜加えられる。また、多種多様なトレーニング方法を準備運動等へ盛り込み、体力の向上に役立てる。</p>			
到達目標	<p>1チームワークを含めたスポーツの楽しさを体得する。  2スポーツを媒体にして仲間とのコミュニケーション能力をはじめとするライフスキルを養う。  3自らの体力レベルを把握し、自己評価することができる。  4スポーツなどの身体活動を積極的に生活の一部に取り入れることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」  (1) -③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」  (2) -①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>担当教員の中には理学療法士としての実務経験を有する者があり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション (更衣不要。場所は当日朝に体育館前に掲示する)	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する。		
第2回	身体ほぐし運動、アイスブレイキング	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第3回	体力テスト、ストレッチ、補助運動	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第4回	体力テスト、ストレッチ、補助運動、種目分け	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第5回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第6回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第7回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第8回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第9回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第10回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第11回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第12回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと応用技術について学習する		
第13回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと応用技術について学習する		
第14回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと応用技術について学習する		
第15回	まとめ	スポーツの役割、ウエルネススポーツの目的を再確認する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	出席状況 (90%) : 欠席1回に対して10%を減点する。 授業への積極性 (10%) : 毎回の授業における受講状況・態度によって評価する。 授業態度や忘れ物(着衣・シューズ)は減点の対象となる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 能率・安全のために、スポーツ用の服装やシューズを着用する。 2. ルールに従い、クラスの成員と協力すること。 3. 身体活動が中心の学習であるから、各自が自らの健康管理に配慮すると共に、他のメンバーの安全にも留意する。 4. 用具・器具使用上の注意を守ると共に、長い爪や装身具の着用等も事故の原因になることを知り注意すること。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	栗木：水曜日10：50～12：20，非常勤教員は授業前後に対応する	メールアドレス		

授業科目	ウエルネス・スポーツⅡ【実技】		開講時期	後期
担当教員	宮平(喬)・栗木(明)・城戸(親)・泉原(嘉)・山下(龍)・大橋(充)		単位	1
授業の目的と概要	<p>本授業は各人が選択したスポーツの実習を通して、それぞれのスポーツの技術・ルール・マナーなどを学習しながら発育終期を迎えた学生の健康・体力向上を図る。また、体力のみならずスポーツを通して、社会の中で生きていく上でのソーシャルスキルを養う。</p> <p>実習するスポーツは、ウエルネス・スポーツⅠと同じ。Ⅱでは前期にⅠを履修し、①Ⅰと異なった種目を選択するグループ、②Ⅰと同じ種目を継続選択するグループの2つに分かれる。①はⅠと同じ要領で学習を進めるが、②の場合はⅠよりもレベルの高い技術やルールを加え、更に集団技能やゲームの学習に力点を置きながら学習を深める。</p>			
到達目標	<p>1チームワークを含めたスポーツの楽しさを体得する。  2スポーツを媒体にして仲間とのコミュニケーション能力をはじめとするライフスキルを養う。  3自らの体力レベルを把握し、自己評価することができる。  4スポーツなどの身体活動を積極的に生活の一部に取り入れることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>(1) ②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」  (1) ③他者と協働して課題に取り組むことができる。「チームワーク力」  (2) ①多様な価値観を尊重し、他者とつながるための意思疎通ができる。「コミュニケーション・スキル」</p> <p>担当教員の中には理学療法士としての実務経験を有する者がおり、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション (更衣不要。場所は当日朝に体育館前に掲示する)	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第2回	身体ほぐし運動、体力テスト (未測定者のみ)	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第3回	レクレーション、体力テスト (未測定者のみ)、種目分け	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第4回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第5回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第6回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第7回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第8回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第9回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第10回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第11回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第12回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと応用技術について学習する		
第13回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと応用技術について学習する		
第14回	種目 (バレーボール、バドミントン、卓球、テニス) に分かれて実技	各自該当する種目のルールと応用技術について学習する		
第15回	まとめ	スポーツの役割、ウエルネススポーツの目的の再確認する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	出席状況 (90%) : 欠席1回に対して10%を減点する。 授業への積極性 (10%) : 毎回の授業における受講状況・態度によって評価する。 授業態度や忘れ物(更衣シューズ)は減点の対象となす。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 能率・安全のために、スポーツ用の服装やシューズを着用する。 2. ルールに従い、クラスの成員と協力すること。 3. 身体活動が中心の学習であるから、各自が自らの健康管理に配慮すると共に、他のメンバーの安全にも留意する。 4. 用具・器具使用上の注意を守ると共に、長い爪や装身具の着用等も事故の原因になることを知り注意すること。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	栗木：水曜日10：50～12：20，非常勤教員は授業前後に対応する	メールアドレス		

授業科目	ウエルネス・スポーツ論【講義】	開講時期	前期
担当教員	栗木 明裕	単位	2
授業の目的と概要	「ウエルネス」とは、「健康」を積極的かつ総合的に捉えた健康観を指す。換言すると「どのようにすれば毎日をそして将来をより楽しめるか?」という考え方である。本授業はスポーツをキーワードに身体構造や身体活動について学習するにとどまらず、身の回りにあふれている健康や美容に関する情報を見極めるための知識と自分自身の健康観を養うことを目的としている。		
到達目標	1ウエルネスに対する知見を日常生活に生かせるようになる。 2身体活動・体力要素の特徴についての理解から、日常生活における運動の重要性を考えることができる。 3スポーツを運動の手段としてだけでなく、精神的、社会的なウエルネスに対して活用することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	(1) -②自分の感情や欲求をコントロールして行動できる。「自己管理能力」 この科目は理学療法士としての実務経験のある教員が担当しており、「授業の目的と概要」記載どおりの実践的教育を行います。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 授業総論		WHO憲章の「健康」について調べる（予習）	
第2回 ウエルネスの概念		大学生としての快適なライフスタイルを考える（予習）	
第3回 健康と社会（1） 健康観の変遷		自分自身の健康観について考えをまとめる（予習）	
第4回 健康と社会（2） ライフスタイルの変遷		「生活習慣病」について調べる（予習）	
第5回 健康と生活（1） 身体のしくみ		身体の内臓とその働きについて調べる（予習）	
第6回 健康と生活（2） 食と健康（ダイエット）		一日の摂取カロリーを計算する（予習）	
第7回 健康と生活（3） フードファディズム		身近なフードファディズムの例を調べる（予習）	
第8回 健康と生活（4） ストレスと健康		身のまわりのストレスについて調べる（予習）	
第9回 健康と生活（5） 睡眠と健康		一週間の睡眠時間を調べる（課題）	
第10回 スポーツと社会（1） スポーツ・運動の効果		身体活動の身体に対する効果について調べる（予習）	
第11回 スポーツと社会（2） スポーツ参加		スポーツイベントの魅力について考えをまとめる（予習）	
第12回 スポーツと社会（3） 観るスポーツ		メディアに取り上げられているスポーツとその効果について調べる（予習）	
第13回 女性と健康（1） 女性の身体特性		身体的性差について調べる（予習）	
第14回 女性と健康（2） 女性と体脂肪の関係		体脂肪の機能について調べる（予習）	
第15回 授業総括		自分自身の健康観について考えをまとめる（予習）	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 授業終了時に毎回確認課題の提出を課す。		
小テスト等	50% 授業中に2回の小テストを行い、1回最大25%で評価する。		
成果発表	10% 課題を1回課す。		
受講態度他	私語など受講態度が悪く、授業の進行や他の学生の妨げとなる場合は減点もあり得る。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	単位取得としての授業参加も大切だが、ここで示した内容は自らの健康に関わってくるものであると捉えながら、授業にのぞんでもらいたい。 グループワークを行うこともあるため、積極的に参加すること。 授業の内容によって教室や授業計画が変更となる場合があるが、講義の際に指示する。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	これからの健康とスポーツの科学第4版、安部孝・琉子友男（編）、KSスポーツ医科学書 目でみる女性スポーツ白書、井谷 恵子・来田亭子・田原 淳子（著）、大修館書店 など その他適宜紹介する。		
オフィスアワー	水曜日10：50～12：20（事前連絡要）	メールアドレス	